

2022年度 公立大学法人北九州市立大学特別研究推進費 実績報告書

2023年4月25日

北九州市立大学長 様

(所属・職名) 大学院マネジメント研究科

(氏名) 松田 憲

公立大学法人北九州市立大学特別研究推進費に係る研究実績について、次の通り報告します。

研究課題名	仮想空間上での待機列が選択のオーバーロード現象に及ぼす影響					
	合計	使用内訳 (単位:円)				
交付決定額	593095	備品費	消耗品費	報酬	その他	旅費交通費
執行額	558470		8470		550000	
執行残額	34625					
共同研究者	所属・職名		氏名		役割分担等	
	経済学部		畔津 憲司		VR 設計, 撮影交渉・補助	
	経済学部		齋藤 朗宏		VR 設計, 撮影補助	
	中央大学		有賀 敦紀		計画立案, VR 設計	

研究分野: 認知心理学, 消費者行動学

キーワード: 選択のオーバーロード現象, 待機列, VR (Virtual Reality)

研究成果の概要 (和文)

商品選択時に待機列がある場面の VR 空間上での構築を進めた。地域クリエイティブ株式会社に開発を依頼し, MetaQuest2 を使用した VR 空間の構築と空間内に待機列を置くことが可能になった。行列は年齢層や性別, 身長などが細かく設定が出来る。VR 空間内にディスプレイが表示され, そこに Google フォーム等の画面を表示させることで, VR 空間に居ながらにしてアンケート調査が実施できるようになった。現時点での VR 空間の背景はドーム状の空間にテクスチャを張り付けることで様々な情景を作り出せ, 北九州市立大学北方キャンパスの地下購買室の3ヶ所と食堂の計4ヶ所のテクスチャが投影可能となった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

選択のオーバーロード現象がどのような状況で生起するのかを明らかにすることで, 過剰な在庫や食品ロスの軽減につながるかと考える。また, VR 空間の構築により, 従来の心理実験で発生していた様々な環境負荷の低減にも貢献すると考える。

1. 研究の背景

多すぎる商品選択肢が選択結果への満足度を低下させて後悔度を上昇させるという「選択のオーバーロード現象」(Iyengar & Lepper, 2000) は、その後の追試によって再現性が疑問視されてきている(レビューとして、Scheibehenne, Greifeneder, & Todd, 2010)。現在では、選択のオーバーロード現象はある特定の状況下で起こる効果であると見なされ(Chernve, Boeckenholt, & Goodman, 2015)、その生起要因の特定に注目が集まっている。申請者グループが行ってきた研究でも、選択時の記憶負荷(2017)や、これまでの購買経験(2018)、選択肢への関心度(2019)、選択肢の価格帯(2020)、待機列による焦燥感(2020, 2021)、選択肢の希少性(2021)、定番選択肢の有無(2022)などが、選択のオーバーロード現象の生起に影響を及ぼすことを明らかにしてきた。

このように、我々は選択時に待機列がある場合に選択のオーバーロード現象が生起することを示したが、その他の要因との関連は必ずしも明らかではない。とはいえ、参加者の後方に待機列を配置する実験はかなり大がかりなものであり、さらにコロナ禍の現状を鑑みると、待機列を置いた実験を複数回行うことは非常に困難である。

2. 研究の目的

本研究は、選択時に待機列がある場面のVR(Virtual Reality: 仮想現実)空間上での構築を進めることを目的とする。

3. 研究の方法

選択のオーバーロード現象に関する先行研究のレビューを行い、VR空間内での待機列の存在がオーバーロード現象の生起に及ぼす影響を検討するための研究計画を立案した。そのうえで、待機列を表現する仮想空間のデザイン案を作成した。

選択時に待機列がある場面のVR(Virtual Reality: 仮想現実)空間上での構築は、地域クリエイティブ株式会社と共同で進めた。VR空間の作成を担当した地域クリエイティブ株式会社は九州建設コンサルタント株式会社の子会社であり、VR空間開発を専門とする。4名の研究者によるデザイン案を地域クリエイティブ社に提出し、後日作成されたVR空間を体験してさらに修正案を提示する、という作業を繰り返し行った。

VR空間の背景用の画像は、北九州市立大学の大学生協の許可を得たうえで、北方キャンパス内の購買室と食堂において、開店前の無人の状態での撮影を行った。

4. 研究成果

現在までに、MetaQuest2を使用したVR空間の構築と空間内に待機列を置くことが可能になった。行列は年齢層や性別、身長などが細かく設定出来る。さらに、空間内にディスプレイが表示され、そこにGoogleフォーム等の画面を表示させることで、VR空間に居ながらにしてアンケート調査が実施できる。

VR空間の背景は、ドーム状の空間にテクスチャを張り付けることで様々な情景を作り出せる。現在までに、北九州市立大学北方キャンパスの地下購買室の3ヶ所と食堂の計4ヶ所で、テクスチャ用の撮影を行い、背景画像として実装されている。